



JCCA
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

建設コンサルタントとは



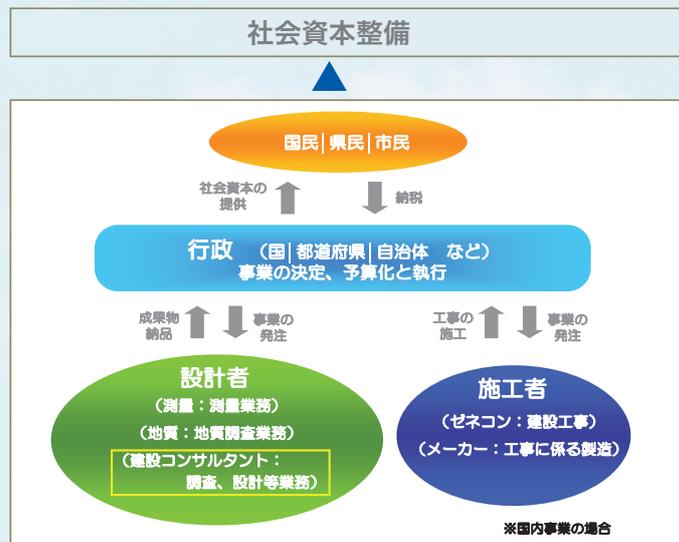
建設コンサルタントとは

道路、河川、ダム等の社会資本整備は国民の生命と暮らしを守り、戦後の経済成長を支え、成熟した社会形成のために重要な土台を築いてきました。

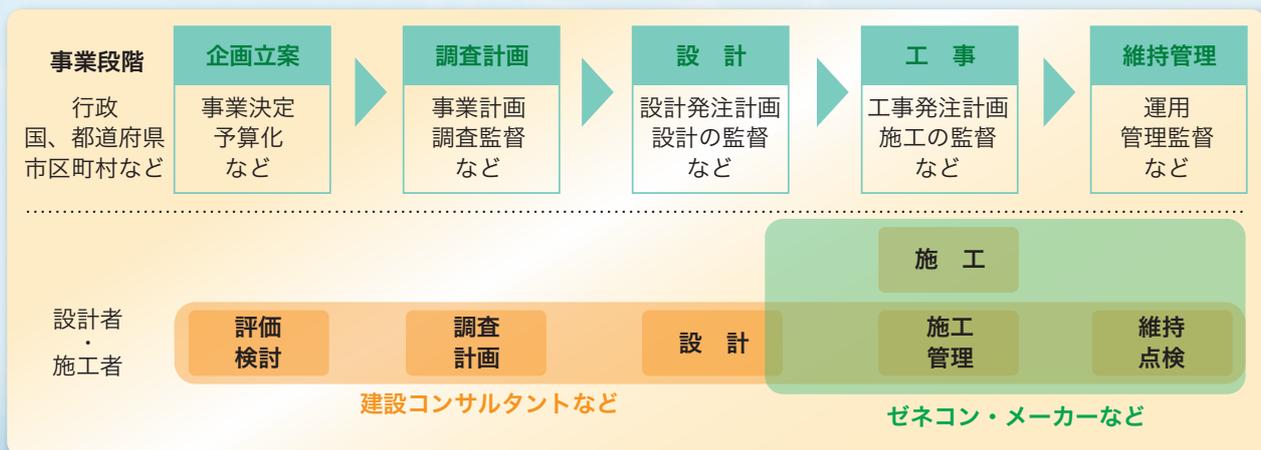
建設コンサルタントとは、これらの社会資本の実現に向けて、調査計画や設計等に関する技術コンサルティングサービスを行うこと（またはそれを行う人のこと）です。

一方、時代の変化に合わせて、「新しく物を作る」ことに加え、「今ある物を効率よく長く活用する」ことも重要になってきており、建設コンサルタントもこれまで以上に高い専門性と技術力を発揮することが求められています。

またこれからの社会資本整備は実際に利用する国民の皆様が使いやすいものを、より効果的に作り上げることが求められています。そのためにも建設コンサルタントは行政と国民の間に立ち、中立的な立場で、合意形成を図るコーディネーターの役割も期待されています。



社会資本整備の流れ（発注者と受注者の役割）



分野

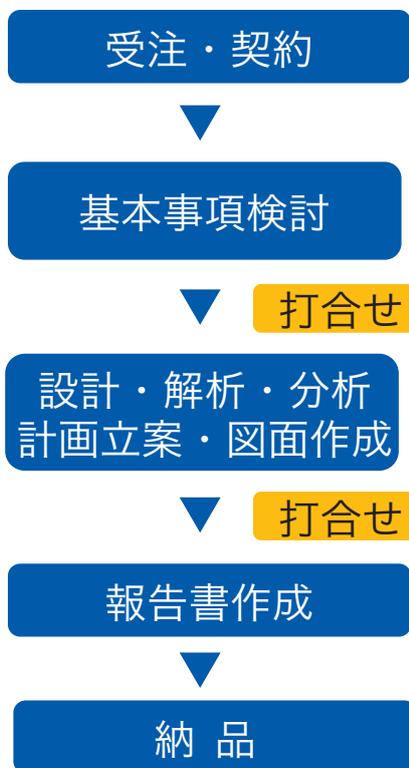
- ①河川、砂防及び海岸・海洋
- ②港湾及び空港
- ③電力土木
- ④道路
- ⑤鉄道
- ⑥上水道及び工業用水道
- ⑦下水道
- ⑧農業土木

- ⑨森林土木
- ⑩造園
- ⑪都市計画及び地方計画
- ⑫地質
- ⑬土質及び基礎
- ⑭鋼構造及びコンクリート
- ⑮トンネル
- ⑯施工計画、施工設備及び積算

- ⑰建設環境
- ⑱機械
- ⑲水産土木
- ⑳電気電子
- ㉑廃棄物
- ㉒建設情報

仕事の流れ

建設コンサルタント会社は、国や地方自治体などから「発注」された業務について「受注・契約」を行い、「基本事項検討」とこれについての「打合せ」を経て、「設計・解析・分析及び計画立案・図面作成」等の作業を、適宜「打合せ」を行いながら進めます。最終的に、報告書や図面等として成果をとりまとめ、発注者の承認後「納品」し、業務を終了します。



基本事項検討

現地調査等を実施して、検討すべき事項を把握



設計・解析など

打合せ結果から報告書作成に必要な各種検討を実施



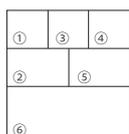
打合せ

検討結果を踏まえて検討の方針を発注者と協議



報告書作成

検討結果を報告書にとりまとめて発注者へ納品



- ①「静かなる洪水－試験湛水－」 江上 良二
- ②「百年映す影」 雪本 信彰
- ③「水路閣への道」 井上 弘一
- ④「点検作業」 大久保 辰朗
- ⑤「復興海岸」 青木 伸雄
- ⑥「イメージ画像」

資格とキャリアアップ

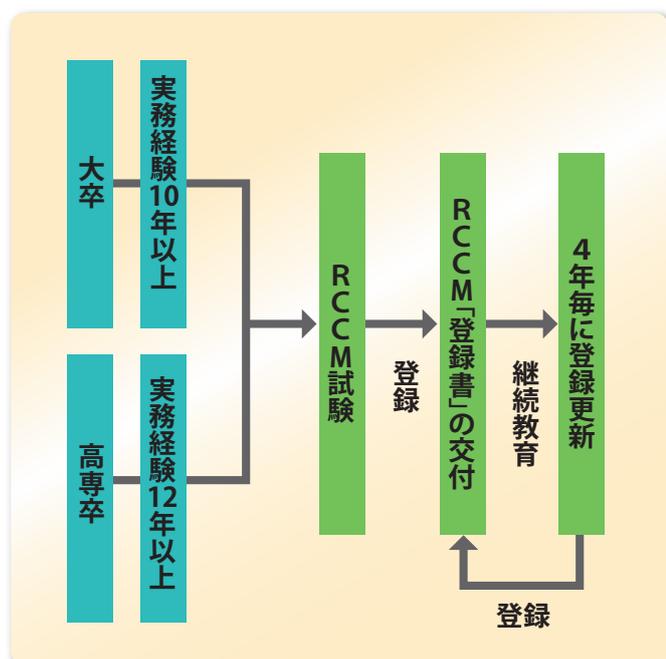
建設コンサルタント業界では、社会的に重要な役割を担うという意義ややりがいがあることに加え、個人の能力を発揮できるチャンスがたくさんあります。これらのチャンスや仕事の経験を活かし技術者としての総合力を高め、より一層高いレベルの社会貢献ができるよう向上していくことが大切です。その際、客観的な技術力の裏付けとなる「資格」を取得することも重要です。優れた人材を迎え、さらに魅力ある集団として発展させることが求められています。

キャリアアップモデル



※シビルコンサルティングマネージャー (RCCM)

RCCM取得までの流れ



技術士取得までの流れ

